



富山県指定文化財

『立山参道の石塔並びに石仏群』

第六番石仏

この石仏は、立山町岩峯寺の雄山神社前立社壇から立山雄山山頂の峰本社まで、俗に十里半といわれる参道沿いに、信徒によって奉納安置された石塔・石仏群の一つで、「西国三十三番札所観世音菩薩霊場」のうち第六番札所、大和国は壺坂寺の千手千眼観世音菩薩の分霊像です。

かつては三途の川（庚申谷川）を渡り、死出の山を越える旧参道沿いに祀られていましたが、いつの頃からかここに来て現在に至っています。

富山県教育委員会
立山町教育委員会













立山町指定 有形民俗文化財

芦峯寺庚申塚の石仏群

(石仏17軀、石塔2基、石碑1基)

平成三年十一月二十六日 指定

庚申塚は芦峯寺集落の入口にある高さ約5mの塚である。

広さ約20mの塚上には、樹齢四〇〇年余と推定される立山杉の老樹を中心に石造物がコの字状に並んでいる。塚の中央に安置された庚申塚の本尊である青面金剛は、かつて立山信仰が盛んな頃、村人や登拝者に禍を与える悪霊の進入を防ぎ、長寿・無病息災・五穀豊穡をもたらすといわれていた。疫病等が流行したときは、その悪霊を追い払うために、庚申塚で「ドンドン火」を焚いて送り出すことも行われていた。なお、定例行事として、数百年に渡り庚申の日に講を行っていたが、近年は春秋の二回行われている。

このように地域と密接に結びついた信仰の対象であり、また、塚上には六地藏をはじめ旧立山道の石仏が集められており、民間の立山信仰の様相を良く残しているものと言える。

石碑は尾張の俳人 晚翠の句碑で、「白いみち 来よと志きりに 呼子鳥」とあり、布橋灌頂会的情景を詠んだものといわれる。

平成二十三年十月 立山町教育委員会



























































































